

## I 地図から見える社会のいろいろ（1）

## 地形図から消されてしまった島

最近、「地図は楽しい」と今更のようによく思うようになりました。パソコンの苦手な私でも、電子地図やデジタルマップの時代の流れに何とかついて行きたい、と地図への想いを新たにしました。今までになかった地図の楽しみ方が生まれ、山岳会でも地図に関する話題がよく取り上げられています。

私はこの機会に地図に関する情報の収集して、何か地図について書いてみたいと考えました。40年間、高校で地理を担当してきたことを整理して、社会的・理科的要素もある地図の内容についてできるだけわかりやすく興味深く紹介していきたいと思います。

今回は今春に連盟・戦跡ハイキングで企画した広島県・大久野島についてです。大久野島は広島県竹原市忠海町沖合3キロ、瀬戸内海に浮かぶ小さな島です。日清・日露戦争の時代、3カ所の砲台設置され、また昭和時代には島全体が陸軍の軍用地とされ、1929年から終戦までの毒ガス兵器を製造していました。日中戦争が始まると毒ガス生産量が急増、中国戦線で使用されました。戦争における毒ガス使用は国際条約に違反するので、その製造は極秘裏に進められ、毒ガス工場時代の大久野島は「地図から消された島」でした。

大久野島の地図（左下、1938年、5万分の1地形図×0.2）のように暴力的とも言える消し方の時代もありました。1941年には地形図の販売が中止になりましたが、それ以前にも軍事機密の点から一般への公開も行われなかった地図も多く見られるようです。今の私たちの時代は、全国どこでも正規の地形図を容易に入手できますが、戦前の頃のような偽りや空白が強られる地図だけは避けなければなりません。

写真の右の島が大久野島で、ソテツなどの亜熱帯の植生を思わせる遊歩道を散策しながら、戦争遺跡を見て回ることができます。毒ガス工場時代の資料が展示されている毒ガス資料館や北部・南部の砲台跡、発電場跡など見所がいっぱいです。機会がありましたら是非一度、大久野島を訪れてみて下さい。

\*参考文献：『地図がわかれば社会がわかる』（田代博著、新日本出版）

